

泡ひとつよりうまれきし | 山内光枝 展

Each Breath a Bubble | An exhibition by Terue Yamauchi

한 방울 거품으로 나 | 야마우치 테루에 전

2024年7月13日[土]—9月23日[月・休]

対馬博物館 特別展示室

〔開館時間〕 午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

〔休館日〕 木曜日(祝・休日の場合はその翌平日)※臨時休館の場合あり

〔観覧料〕 一般・大学生 300円(団体240円)／高校生以下無料

※対馬市民は観覧料から110円減額。

〔主催〕 対馬博物館

① アーティスト・トーク

日時＝2024年7月13日[土] 14時—15時

登壇＝山内光枝氏

要件＝申込不要 ※観覧券が必要となります。

開催場所＝特別展示室

② クロストーク

日時＝2024年9月中開催予定

登壇＝山内光枝氏、石原真伊氏(鳥羽市立海の博物館)

要件＝要申込

開催場所＝対馬博物館 ギャラリー

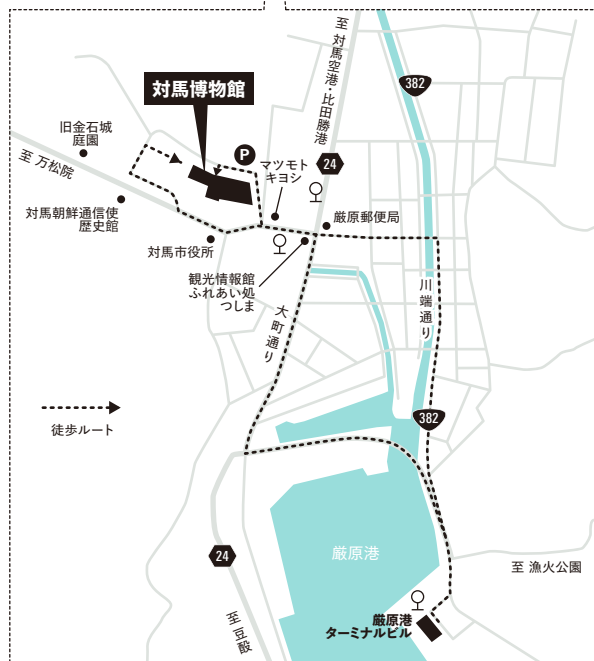
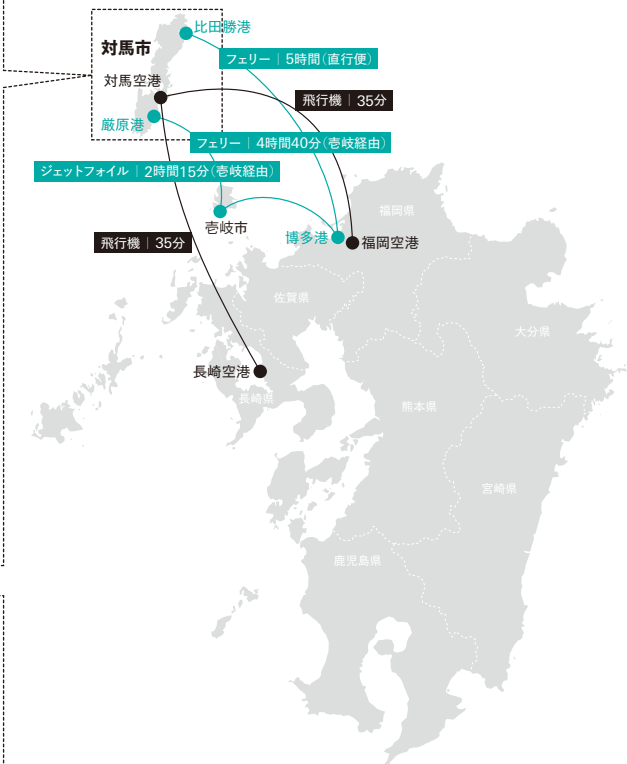
イベントの最新情報は、

対馬博物館の公式ウェブサイトをご覧ください。⇒

<http://tsushimamuseum.jp/event/>



泡ひとつより
うまれきし
山内光枝 展
Each Breath a Bubble
An exhibition by Terue Yamauchi
한 방울 거품으로 나
야마우치 테루에 전



対馬空港→対馬博物館

車 約15分

厳原方面に約15分、厳原郵便局の信号を右折、マツモトキヨシを過ぎて坂道に右折

タクシー 約15分

バス 約35分

(厳原行・厳原バス停下車、徒歩3分)

厳原港→対馬博物館

車 3分

国道を比田勝方面へ、厳原郵便局の信号左折、マツモトキヨシを過ぎて坂道に右折

タクシー 3分

バス 6分

(比田勝行・厳原港国内ターミナルまたは桟橋バス停乗車、厳原バス停下車、徒歩3分)

徒歩 約10分

比田勝港→対馬博物館

バス 約2時間30分

(厳原行・厳原バス停下車、徒歩3分)



2024年
7月13日[土]—
9月23日[月・休]
対馬博物館

最新情報はこちら



美術家の山内光枝は、2010年頃、海女村として知られる対馬の曲集落で撮影された裸の海女が佇む一枚の古い写真と出逢います。それまで抱いていた日本人像や人間像から解放されていくような衝撃を受けた山内は、その後現在にいたるまで、主に黒潮・対馬暖流域の浦々で滞在を重ねながら表現活動に取り組んできました。本展では、山内の作品だけでなく、曲の方が復元制作した海女船や曲に伝わる海女漁の道具、また、写真家 芳賀日出男氏が捉えた曲の海女の写真なども展示します。10数年にわたって曲を軸に創作を続けてきた山内光枝が、海と人間の営み、そして、記憶にまつわる物語を紡ぐ展覧会です。



山内光枝《つれ潮》2018年、映像、対馬博物館所蔵



漁労具
曲生活館所蔵



海女道具
曲生活館所蔵

山内光枝展

山内光枝(やまうち・てるえ)

1982年福岡県生まれ。美術家。2013年、済州ハンスブル海女学校(韓国・済州島)を卒業、素潜りでの水中撮影を体得する。2015年に文化庁、2016年には国際交流基金の支援を受けてフィールドを海洋アジアへと広げる。「東京ドキュメンタリー映画祭2019」にて、玄界灘を舞台とした初の長編映像作品『つれ潮』(本展出品作)が奨励賞受賞。最近の主な展覧会に「水のアジア」(福岡アジア美術館、2023年)、「日本パビリオン」(光州ビエンナーレ・韓国、今年9月開催予定)がある。



海女船
曲の方が制作した
「曲の海女船(家船)」
曲生活館所蔵

“おれは海女の子やけん…”
ある人の生に深く波打つ
おそろしいほど静かな愛情に
この十数年、一歩も近づけないまま
心を動かされつつづけてきました。

民俗学者・宮本常一とともに
昭和30年代の対馬を歩き記録した
写真家・芳賀日出男氏の写真も展示

©芳賀日出男／HAGA LIBRARY

